

久慈川・那珂川のかわまちづくり

Building River Towns in Kuji River/Naka River

まちづくり・防災グループ	次 長	竹内 秀二
まちづくり・防災グループ	グループ長	阿部 徹
まちづくり・防災グループ	研 究 員	阿部 充
まちづくり・防災グループ	研 究 員	佐治 史
まちづくり・防災グループ	研 究 員	松尾 峰樹

1. はじめに

茨城県を流れる久慈川・那珂川では、25年ほど前から水辺の利活用のために拠点整備が行われており、現在も整備が推進されている。

この調査研究では、河川利用者数調査と河川利用者アンケート調査から利用状況を把握して、久慈川・那珂川の5地区で、水辺の利活用による地域活性化の方策に関する研究を行った。

2. 久慈川・那珂川のかわまちづくりの現況

(1) かつら地区（那珂川：城里町）

2011年の夏からカフェなどの社会実験を始め、2014～2018年度でハード整備が完了しており、道の駅かつらが主催者の中心となり、現在まで、春夏秋冬の季節に応じた体験イベントが開催されている。

(2) 戸多地区（那珂川：那珂市）

2017年3月にかわまちづくり制度の登録地区となり、ワークショップ等により合意形成がなされてきており、2018年11月からは、河川管理者による施設整備に着手している。

(3) 水戸地区（那珂川：水戸市）

2018年5月まで2橋梁の架替工事仮設用地とされていた水府地点について、地域住民や利用団体が場所の魅力発見や利用方法について話し合いを始めている。

(4) 水戸地区（桜川：水戸市）

2015年度までに河川管理者の施設整備が完了しており、2017年7月には2日間実施された社会実験カフェ「RIVER」が好評であった（写真-1）。

(5) 東海地区（久慈川：東海村）

東日本大震災の影響により、2014年度まで中断していた施設整備が再開ののち2018年度に完了し、2019年6月から全域で利活用及び管理運営が始まっている。



写真-1 「RIVER」桜川左岸美都里橋脇

3. 調査結果の概要

(1) 河川利用者数及び河川利用者アンケート調査

那珂川6地点、桜川3地点、久慈川2地点で、河川水辺の国勢調査マニュアルに準拠した手法により、4日間の河川利用者数調査（延べ7,118人）、8日間の河川利用者アンケート調査（1,052件）を実施した。

(2) 調査結果

最も利用者数が多い地点は、那珂川右岸水戸地区の4,121人（1日利用者数の4日間の合計値）であり、次いで、那珂川右岸かつら地区の1,252人（1日利用者数の4日間の合計値）であった。

那珂川右岸水戸地区はサッカー場として利用されているが、昨年度の987人に比べて増大した要因は、8月5日（1日利用者数1,165人）、11月3日（1日利用者数2,689人）の調査時にサッカー大会が開催されており、大会により競技利用者数も観戦者数も増えた影響を受けたものと考えられる。

那珂川右岸水戸地区は、調査日以外の日も子供たちによるサッカー競技が行われていることを確認しており、多くの利用がされている。この理由については、サッカーグラウンドに隣接して広い駐車スペースが確保されていること、堤防観覧席護岸とサッカーグラウンドまでに比較的広いスペースがあり、階段護岸も使いながらテント等が設置できること、隣接する堤内地に利用者が自律的に運営・管理しているトイレや水道施設があり、適切に維持管理されているからではないかと考えられる（写真-2）。

アンケート調査の自由回答を整理すると、整備された上流の地区では、「きれい」「自然がある」「景色が良い」などの意見が多く、環境整備された下流では、「歩きやすい」「使いやすい」「散歩に善い」等の意見が多かった。未整備地区では、「早く整備してほしい」という意見が多かった。どの地区においても、「ゴミ対策」「草刈り」への意見があった。



写真－2 水戸地区那珂川右岸(根本)の河川利用状況

4. 研究成果の概要

(1) かつら地区 (那珂川：城里町)

秋と冬の体験イベント参加者 55 名の全員が自動車利用で、道の駅が隣接していることもあり、約半数が県域外からの来訪者だった。年齢層に偏りは無くグループの 7 割が家族連れだった。アンケート調査では、整備範囲を拡げて欲しいという意見は約 4 割であった。

付近の高水敷に繁茂した洪水の流れに影響がある竹林を伐採する際に、発生する竹の活用について検討した。イベントでは、竹細工や竹炭焼きの体験(写真－3)を企画し、参加者から聞き取り調査を行い、大変好評であったことがわかった。地元竹芸会会員からは、チップ化して肥料にできる、太いものは祭りの舞台などに使えることを聴取した。



写真－3 竹細工

(2) 戸多地区 (那珂川：那珂市)

現在、施設整備中であるが、利活用計画の検討段

階に参画した関係者や地域住民が、工事の期間もかわまちづくりへの参加意識を継続して高めていくための提案として、高水敷清掃時の完成予想図へのアンケート調査、工事見学会の開催などを検討した。

(3) 水戸地区 (那珂川：水戸市)

水辺を楽しく利用するための利用者調査として、毎年 7 月に全国から参加者を募って実施されている水府流遠泳大会と企業冠少年サッカー大会について、現地で現状や課題の聞き取り調査を実施した。

遠泳大会では、水面に出入りする水際の滑りや凸凹が課題になることがわかった。

サッカー大会では、堤内地側でのトイレや用具倉庫の整備、高水敷の広い駐車場があり、グラウンドの維持管理・運営などが適切に行われていることが、利活用の増進につながる事がわかった。

(4) 水戸地区 (桜川：水戸市)

桜川の利活用への地域の参加意識や課題を把握するために、関係者への聞き取り調査を行った。

市役所の各々の担当部署ごとには、次年度のイベント予定を 1 年くらい前から把握しており、水戸商工会議所は、水辺の利活用に取り組んでいて「千波湖フォーラム」を開催している。地元企業のほとんどは、河川敷を使えることを知らないが、2017 年 7 月の社会実験に参加した民間出店者は、高水敷利用の継続を要望している、などのことがわかった。

水戸市の市街地にある桜川での利活用を促進するためには、早い時期から関係者の合意形成を行い、社会実験を継続することが効果的と考えられる。

5. おわりに

2016 年 3 月に、久慈川の直轄管理区間の直ぐ上流に、「道の駅」「川の駅」としてオープンした「道の駅常陸大宮かわプラザ」は、非常に多くの来訪者を集める人気のスポットとなっている。久慈川や那珂川には魅力があり、地域としても訪れやすい場所であることがうかがえる。

久慈川・那珂川には、辰ノ口親水公園、大洗水辺プラザ、小川水辺プラザなど、地域活性化に資する水辺の利活用の拠点が存在している。水辺の魅力を発見し、地域と河川管理者が協力して、水辺の楽しい利活用が推進されることを期待される。

最後に、調査研究にあたり、国土交通省常陸河川国道事務所や関係者のみなさまには、多大なる御協力と御指導をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。